

事業再評価シート

事業名	道整備交付金事業		
箇所名	銀鏡・小川線	市町村名	西都市

(上段()書きは当初計画)

実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H16	H26	(H30) H30	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率 (%)	
			事業費	用地
	(1,090) 1,090	624	57.2	-
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	事業採択後10年経過		(1.40) 1.17	継続

全体計画																								
<p>① 全体計画延長：5,500m 起点：西都市大字銀鏡字長須田 終点：西都市大字銀鏡字杖立</p> <p>② 利用区域内の森林の現況</p> <p style="text-align: right;">単位：ha</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 70%;">うち民有人工林面積</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">531</td> <td style="text-align: center;">304</td> </tr> </table> <p>③ 森林整備計画（10ヶ年計画）</p> <p style="text-align: right;">単位：ha</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">H16-H25</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主伐</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>間伐</td> <td style="text-align: center;">51</td> <td style="text-align: center;">61</td> </tr> <tr> <td>造林</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>保育</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">57</td> <td style="text-align: center;">61</td> </tr> </tbody> </table>	利用区域面積	うち民有人工林面積	531	304	区分	H16-H25		計画	実績	主伐	0	0	間伐	51	61	造林	6	0	保育	0	0	計	57	61
利用区域面積	うち民有人工林面積																							
531	304																							
区分	H16-H25																							
	計画	実績																						
主伐	0	0																						
間伐	51	61																						
造林	6	0																						
保育	0	0																						
計	57	61																						

事業概要	
＜林道開設＞	
全体延長	5,500 m
総事業費	1,090 百万円
事業期間	平成16年度～平成30年度
＜林道区分＞ 森林基幹道	
自動車道区分	1 級
車道幅員	4.0 m
全幅員	5.0 m

事業目的
<p>○目的、必要性</p> <p>西都市大字銀鏡字長須田と字杖立とを結ぶ基幹道を開設することにより、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①効率的な森林経営や森林の適正な管理 ②銀鏡神社と小川作小屋とのアクセス改善 ③県道西都南郷線と小川越野尾線の災害時の迂回路としての機能を果たす。 <p>○計画での位置付け</p> <p>民有林林道網整備計画・地域森林計画による</p> <p>○事業を継続する必要性</p> <p>林業生産の基盤、観光地へのアクセス、災害時等に地域住民の県道等のバイパス道として重要な役割を果たす路線であり、地元住民等からも早期完成、供用開始の強い要望があるなど重要な路線であることから、事業継続が必要である。</p>

事業の進捗状況
<p>○現在の事業進捗状況</p> <p>平成25年度末現在 事業費進捗率：57.2% (624百万円/1,090百万円) 延長進捗率：44% (2,421m/5,500m)</p> <p>○今後の事業進捗の見込み</p> <p>完成区間は既に供用開始しており、残りの区間については引き続き整備を図り、平成30年度までの全線完成を目指している。</p> <p>○事業が長期化している理由</p> <p>当林道は土質が脆弱であり、施工中、大雨により幾度も崩壊し、その復旧に日時を要したことなどから事業進捗が遅れている。</p>

社会情勢等の変化

①利用可能な国内の森林資源が充実しつつあることから、安定供給可能な資源として国産材への期待が高まっている。

スギ素材生産量（全国1位）	平成25年	1,564 千m3
製材品出荷量	平成24年	677 千m3
	うち県外出荷	451 千m3(67%)

②利用可能な林分が増えており、今後は、主伐や長伐期施業の増加が見込まれる。

県全体（平成25年）

- ・ 保育管理が必要な7齢級以下30%
- ・ 収穫可能な8齢級以上70%

本路線の状況

民有人工林面積	うち収穫可能な面積 (8~10齢級以上)	割合
304ha	151ha	50%

③木材価格が長期に低迷しており、生産コストの縮減が重要となっている。

スギ素材価格（中丸太）

事業採択時（H16）	13,000 円/m3
現在（H25）	11,200 円/m3

（参考）

宮崎県森連 林産物流通センター

（H26.10月）価格 3市場平均単価 13,900円/m3

④地球温暖化防止のためのCO₂森林吸収源対策として、間伐等の森林整備・保全を一層加速化していくことが重要となっている。

間伐計画	国（H25~32年度）	毎年52万ha	計416万ha
	県（H25~32年度）	毎年1万ha	計8万ha

⑤木材需要増加への対応が求められている。

大型製材工場や木質バイオマス発電施設の稼働に伴い、木材需要が増加傾向にあることから、これらに対応していくことが求められている。

⑥現在も地域住民からの早期開通が望まれている。

当路線は、森林管理及び木材生産の基盤、非常時におけるバイパス的役割等多様な用途が期待されていることから、早急な開通が望まれている。

事業効果の分析			
○費用対効果 (B/C)			
総便益 (B)		総費用 (C)	
項目	金額 (千円)	項目	金額 (千円)
木材生産等便益	195,715	事業費	1,340,593
森林整備経費縮減等便益	323,081	維持管理費	7,565
一般交通便益	226,709	合計	1,348,158
森林の総合利用便益	814,128		
災害等軽減便益	12,554		
合計	1,572,187	総便益 (B)	1,572,187
		総費用 (C)	1,348,158

= 1.17

○事業を継続することの事業効果分析

- ①林業生産性向上による低コスト化
- ②観光施設へのアクセス強化
- ③災害時における迂回路等交通ネットワークの強化

○開設効果指数

生産指数 + 育林指数 = 3.32 ≥ 1.2

・ 生産指数 =
$$\frac{\text{蓄積計}}{\text{民有林針葉樹面積} \times 100 + \text{民有林広葉樹面積} \times 30}$$

=
$$\frac{117,269}{299 \times 100 + 219 \times 30} = 3.22$$

・ 育林指数 =
$$\frac{\text{利用区域内の3歳級以下の面積}}{\text{民有林針葉樹面積} + \text{民有林広葉樹面積}}$$

=
$$\frac{53.36}{299 + 219} = 0.1$$

コスト縮減

切土量を抑制するため、可能な限りL型擁壁工等を採用したり、大盛土施設を設置するなど、切土と盛土のバランスをとるとともに残土運搬経費の削減を図った。

また、環境に配慮し、濁水対策としては、盛土法面への丸太柵工や種子吹付工を施工するなど、早期緑化による法面の流出防止等をを図っている。
--

代替案の可能性

現行の計画線形は、山腹斜面、沢筋等の地形・地質・林況等を十分に検討し、切土と盛土のバランスを取り、切土量を極力少なくするように努め、経済的な線形となっている。このため、代替案は示していない。

対応方針

継続

位置図（管内図）

